

地域で学び、地域と共に歩む松本大学の今。

松本大学学報

sokyu
蒼穹

2018.9 Vol.132



進展する地域防災への取り組み (詳しくはP.6をご覧ください) 写真は新村地区、新村保育園との合同防災訓練の様子

特集1 予防医学的総合科学に特化した 先駆的研究を展開する大学院

時代に沿った変化を遂げ、修了生の進路・実績に確かな手ごたえ …… P.02

特集2 教員養成への挑戦

手厚い支援体制を整え、多角的に支援を展開 …………… P.04

- 「松本大学教育実践改善賞」創設 …………… P.05
- 健康づくりプログラム 対象者を拡大し本格実施へ …………… P.08
- 松本大学 現在の連携協定締結状況 …………… P.09
- 3年生の就職活動支援開始!「夏季就職合宿」 …………… P.14 ほか

予防医学的総合科学に特化した 先駆的研究を展開する大学院

時代に沿った変化を遂げ、修了生の進路・実績に確かな手ごたえ

大学院健康科学研究科は2011年、「健康づくり」という観点において、より専門性の高い指導的立場の人材を育成し地域社会へ還元することを目的に、本学の人間健康学部を基盤として開設しました。社会の変化に対応しつつ進化してきた大学院の今をご紹介します。

(松本大学大学院 健康科学研究科長 山田 一哉)



時代に求められる教育内容を展開

〈大学院概念図〉



大学院健康科学研究科が設置されて8年目を迎えました。人間健康学部を母体として、発足当初は、学部と同様に厚生労働省の掲げる「健康日本21」のうち、「栄養」と「運動」の両面から人々の健康の維持・増進に関わる予防医学的分野を「健康科学」と位置づけ、「健康づくり」に関する基礎的・実践的な研究・教育を行ってきました。しかし、最初の4年間の大学院生への研究・教育指導や「健康」を取り巻く社会情勢の変化から、いくつかの修正点が見えてきました。そこで、5年目以降に健康科学の「健康」を世界保健機関のいう「健康とは単に病気や虚弱でないというだけでなく、身体的、精神的、そして社会的に完全に良好な状態であること」に変更しました。すなわち、人々が「健康」であるためには、「栄養」「運動」「休養」に加えて「こころ」「QOL(生活の質)」を取り扱う必要があること、また、個人が健康であるためには個人を取り巻く環境・地域・社会なども健全でなければならないという考え方です。したがって、「健康科学」を自然科学分野のみならず人文・社会科学分野も取り入れた予防医学的総合科学として捉え直し、人間健康学部だけでなく、総合経営学部・教育学部や松商短期大学の教員にも科目を担当していただき、研究・教育内容をより充実させることに注力してきました。

教員を増員し、 最先端の研究を活発に展開

健康科学研究科の専任教員は設置当初は7名でしたが、「健康」領域の変更に伴い、現在では11名に増員しています。研究分野は基礎医学系から調査・実践系まで、学問分野も自然科学系だけではなく人文・社会学系まで

広く含みます。

教員は、2011年度から2017年度までに文部科学省(日本学術振興会)科学研究費を研究代表者として21件、研究分担者として14件獲得しています。今年度も11名中5名(45.5%)で6件採択されており、最先端の研究を活発に展開しているといえます(蒼穹vol.131 p.12に掲載)。

また、廣田直子教授がH25年度厚生労働大臣表彰(栄養士養成功労賞)、および独立行政法人日本学術振興会からH28年度科研費審査員賞を、山田一哉教授が日本学術振興会H25年度「ひらめき☆ときめきサイエンス推進賞」を、高木勝広教授がH26年度健康長寿長野研究会優秀発表賞を受賞するなど、教員の活動が外部の機関からも評価されています。

「宇宙医学で世界で活躍できる人材」を目指して

増澤 諒(2017年度 健康科学研究科修了)

宇宙医学の研究を目的に、社会人入学生として入学しました。研究における知識や技術、専門的な知見を得られた2年間の学びの中でも、一番の財産となったのは「経験」を積めた事です。日々の研究はもとより、スウェーデンでの国際学会や300人以上の前での口頭発表などが確実に自信につながり、時間も情熱も注いだ修士論文はこのたびアメリカの生理学会誌に採択されました。初めての研究分野で大変なことも多かったですが、乗り越えられたのは先生やゼミの仲間、松本大学の自由な校風のおかげです。今後は研究生として大学に残り、最終目標の「宇宙医学で世界で活躍できる人材」を目指して研究精度の向上や知識のボトムアップを図ります。



大好きな実験を究めつつ成長できた

花岡 由紀奈(2017年度 健康科学研究科修了)

松本大学へは、他県の短大を卒業後、管理栄養士の資格取得を目指して3年次からの編入で入学しました。短大の卒業試験の際に実験作業が多くあったことでその面白さに目覚めていて、編入後は資格取得を目指しつつ将来は実験を続けることを望んでいたため、大学卒業後は迷わず大学院への進学を決めました。松本大学の大学院は少人数制で先生との距離が近いので、手厚い指導を受けられます。器具や薬品の名称、実験の手法などを覚える傍ら、社会人をはじめとした他の学生との関わりも自ずと増えるため、いろんな世代や状況の人との意見交換できた環境は、研究を越えて私の視野を広げてくれました。



全国平均を上回る 34.1%の社会人入学生

開設から8年の間に41名の学生が在籍し日々研究に励んできました。これまでの構成は、一般学部出身者は27名、他大学出身者が2名となっており(詳細は右図を参照)、そのうち管理栄養士・栄養士資格を有する者が14名、健康運動指導士を有する者が7名です。

一方、社会人入学生は14名で学部全体の34.1%を占めており、これは修士課程の全国社会人入学生平均の10.5%を大きく上回ります。社会人院生の職業としては、大学・短大教員3名、高等学校教諭1名、行政職1名、医療機関8名、給食会社1名です。管理栄養士が多い

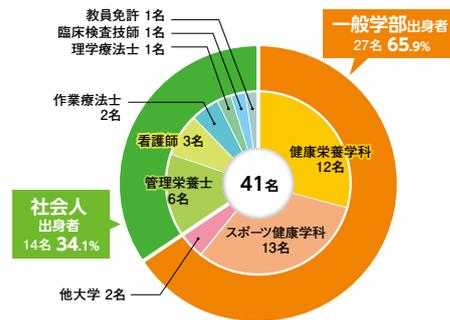
のは想定通りでしたが、コメディカルの社会人入学生が人数的に上回ったことは意外でした。特に5年目以降に多様化しており、これは「健康」の定義を変更した効果だと思われます。

〈大学院生も外部研究費を獲得〉

また、教員のみならず大学院生も、外部資金として6名が長野県科学振興会から研究費を獲得しています。自分の研究内容を他者に評価されて研究費を獲得したというのは何事にも代え難い経験だと思います。学会でも優秀発表賞を受賞したり、社会人や学部出身者を問わず研究論文が英文国際誌や国内学会誌にいくつも刊行されており、各々が目指す進路に向けて活躍中です。1名を除く40名が県内在住者であるという観点からみても、ま

さに地域に密着し、地域に関わる人たちのスキルアップに寄与しているといえるでしょう。

〈大学院生の出身構成〉



大学院生の声、修士論文テーマ、科研費採択実績についてはこちらから



社会人が 学びやすい環境

本学では、社会人が学びやすいようにいくつかの特別な制度を設けています。

〈入試制度〉

受験希望者は、研究志望分野を担当する教員と複数回面談し、研究内容等について十分な事前面談を行うことで、入学後のミスマッチを防いでいます。また、それぞれ資格を有しているため、入学試験では専門科目試験を省き、英語筆記試験のみとしています。

〈社会人の都合に合わせた講義時間の設定〉

就業している社会人向けの講義は夜間開講(18:00~19:30、19:40~21:10)が中

心で、都合に合わせて休日開講や集中講義への変更も行っています。

〈修業年限を延長できる、長期履修制度〉

修士課程の標準修業年限は2年ですが、手続きにより、修業年限を最大4年にまで延長できます。授業料を分割納入できるため、一度に支払う金額も少なく負担が減り、無理なく自分のペースで進められる制度です。思った以上に単位取得や研究が進んだ場合は延長した修業年限を短くすることもできます。

〈科目等履修制度からの単位認定〉

科目等履修制度は原則、社会人の専門分野の知識の更新を目指す制度ですが、科目等履修生が大学院に進学した場合には、入学

後に大学院の修了単位として認定することができます。

〈社会人院生の教育の到達目標〉

多くの社会人院生は短期大学卒業者(以前は栄養系や医療系学科の大学そのものが無く、短期大学のみでした)であり、卒業研究等の指導を受けたことがほとんどなく見よう見まねでやってきたなど、研究の経験が少なく、その方法がわからなかったり自信が持てないまま研究作業を行っているという実情があります。松本大学大学院では、到達目標の一つに基礎的研究能力の涵養を掲げ、そのような学生が修了後の研究への道筋をたえられるよう指導しています。これにより社会に戻っても、的確な研究を続けることができます。

企業、病院、高等教育機関 教員など希望する進路へ就職

一般学生は学部で既に卒業研究を行っているため、大学院での到達目標は、最先端研究を行う能力を養うことです。また昨今、大学をはじめとする高等教育機関にはグローバル化への対応が求められています。本大学院に入学した院生のうち、1名が半年間フィリピンに、2名が1年間アメリカに留学しました。社会人院生の中には海外留学を終えた後に、本大学院に進学した学生もいます。このように大学院への進学を個人のスキルアップを徹底的に追及するチャンスとして使うこともできます。

修士生の進路など、大学院のキャリアアップ支援についてはこちらから



修了生は、企業・病院をはじめとした、本人が希望した進路に着実に就職しています。「特別研究」の講義枠内に長期インターンシップを導入したところ、2名が企業や団体に実際にインターンシップに赴き、その後就職を果たしています。

また、大阪大谷大学薬学部、日本体育大学、松本大学人間健康学部、城西大学薬学部、富山健康科学専門学校など**高等教育機関の教員として5名**が、大学や企業の**研究職として2名**が、**老人福祉施設に公務員として1名**が就

職したり、他大学院の博士課程に1名が進学しています。大学院では、栄養教諭と保健体育の専修免許の取得が可能ですが、現在までに栄養教諭(専修免許)を3名が取得しています。

このように大学院生の活躍により、6期生までしか修了生を出していない地方の小さな大学院としては多くの面で特筆すべき成果が出ています。今後の課題としては、地域社会の活性化への一翼を担う大学院として在るべき姿を追求するとともに、さらに研究分野の裾野を広げること、より高度な人材を育成するために博士課程を設置することが挙げられます。

【2019年度 入学試験日程】松本大学大学院 健康科学研究科健康科学専攻(一般学生、学内推薦学生、社会人共通)

試験区分	募集人数	会場等	出願期間	試験日	合格発表日	手続締切日
後期	3	松本大学	2019年1月7日(月)~1月25日(金)	2月3日(日)	2月12日(火)	2月20日(水)

教員養成への挑戦

手厚い支援体制を整え、多角的に支援を展開

本学では、「地域社会に貢献できる人材の育成」の一環として、教員免許状の取得と教員採用試験の合格に向けて、手厚い支援体制を整えています。全国の教職課程を持つ大学の中では先駆けて教職センターを設置し、本学ならではの教員養成と教員採用の実績をあげつつあります。今回は、その体制についてご紹介します。(全学教職センター長・教授 山崎 保寿)



教職支援相談室で学習指導

全学教職センターのもと 2つの教職センターが連携

本学では、全学をあげて教員免許状の取得と教員採用試験の合格に対する支援体制を整えています。全学教職センターのもとに教育学部教職センターおよび総経・人間教職センターを設置し、両センターが連携して、教員養成を支援しています。

まず、教育学部教職センターでは、学生支援の窓口として教職支援センターを置き、3・4年次の教育実習や教員採用試験に向けた体系的な教育実践カリキュラムを推進しています。具体的には専門員が、実習校との調整、学生の事前指導などをきめ細かく行ったり、教員採用試験対策として、「マツダイモシ」の分析、小論文対策、面接対策等を実施しています。また、学生の進路や生活に関する教育相談活動も教職支援センターの重要な役割です。さらに特徴的な活動として、学外広報誌「教育学部タイムズ」の発行、特別支援学校高等部生徒の職場実習受け入れなど、独自の活動も行っています。

総経・人間教職センターでは、教職支援相談室を置き、各学年における教職課程の履修指導をはじめ、教育実習(4年次)の事前・事後指導、教員採用試験の受験対策などを重点的に行っています。具体的には専門



学習室に掲げられた「教学半(=教うるは学部半ばなり)」

員が教育実習前の教材研究の相談、教員採用試験の対策指導(小論文の添削、ドリル学習)など、学生の要望に親身になって

対応しています。また、特徴的な活動として、卒業後2年間は専門員が教職に就いた卒業生を学校訪問し、職場における悩みや不安の軽減などの、キャリア相談を行いサポートしています。さらに、教職センターだより「卒業後も応援 フォローあっぷ」の発行も行っています。

〈全学あげての教員養成支援体制〉



目指す教員像

本学の教職課程がめざす教員像は、「地域の人々との協働(collaboration)能力を備えた力量をもった教員」です。その教員像は、以下の3つの柱で成り立っており、優れた資質を有した教員像を目指して、教員採用試験合格への対策として、履修指導、模擬面接、模擬試験、相談活動などを取り入れています。

- I. 自己の長所を伸ばし、得意分野をもった個性あふれる魅力的な教員
- II. 地域社会への深い理解を土台とした、地域との協働能力を備えた教員
- III. 「教育への情熱・使命感」などの一般に社会から教員に求められる資質・能力を身につけた教員

教職者同窓会「梓友会」で フォローアップを実施

本学での教職課程の開設以来、100名を超す卒業生が教員として長野県を中心に全国各地で活躍しています。前述の教員を中心に、臨時採用や教職を目指す卒業生を含めた同窓会として、「梓友(しゅう)会」が組織されています。梓友会は、年2回定例開催しており、職場の悩みや情報交換のほか、教職に関するタイムリーなミニ研修を取り入れるなど、卒業生のさらなる力量向上を図るフォローアップを行っています。

実績速報

今年は過年度生を含めた16名が公立学校教員採用試験一次試験に合格。一次試験合格者には、二次試験対策の面接指導を行っています。

上越教育大学と連携・協力に関する協定を締結しました

全学教職センター長・教授 山崎 保寿

本学は9月13日、教員養成および教育・研究面での協力を推進するための連携・協力協定を、上越教育大学と締結しました。本学で調印式を行い、両大学の学長が協定書を交わしました。

この協定の目的は、両大学で行われている「教員養成、教育、研究等における人



的・物的資源の相互活用その他連携協力を推進することにより、それぞれの活動の充実を図るとともに、我が国及び地域の発展に寄与すること」とされています。具体的な連携・協力事項として、次の内容が定められました。

- (1) 教員養成の高度化に関すること
- (2) 共同研究その他教育・研究に関すること
- (3) 学生・教職員の交流に関すること
- (4) 施設・設備の相互利用に関すること
- (5) その他連携・協力に関する必要な事項

この協定により、本学の学生で、教職への意欲と適性を有すると認められた者に対しては、上越教育大学大学院学校教育研究

科での学修の機会が提供され、試験の一部免除など、学生受け入れ等に関する様々な支援を受けられることとなります。

本学は、これまで、教員を志し大学院に進学する卒業生の多くが上越教育大学の大学院学校教育研究科に入学している実績があります。本学に教職課程が開設されて以来、17名の卒業生が上越教育大学大学院へ進学し、大学院修了後は教育界で活躍しています。また、彼らが本学在学中に取得した教員免許は、中学校保体、高校保体、中学校社会、高校地歴、高校公民、養護教諭、小学校(二種)など、多岐にわたっています。

この協定により、両大学がさらに発展するとともに、学生の資質・能力向上への支援体制が一層充実していくことが期待されます。

教育界に新しい風を「松本大学教育実践改善賞」創設

本学では、松商学園創立120周年を記念して、「松本大学教育実践改善賞」を創設しました。大学が、地域貢献を理念として一般教員を対象とした賞を創設したことは、全国的にも例が少なく、長野県内では初の事業となります。皆様からのご応募をお待ちいたします。

目的 学校教育における教育実践または地域の教育振興に実績が顕著な教員を表彰し、長野県全体の教育振興に寄与することを目的とする。

- 応募条件**
- 1一般教員部門** (若干名) 長野県内の小学校、義務教育学校、中学校、中等教育学校、高等学校、特別支援学校の現職教員を対象。
 - 2卒業生部門** (若干名) 松本大学の学部または大学院ないし研究生を卒業または修了し、教職に就いている者を対象。長野県の内外は問わない。

※他の賞または研究誌に応募し、受賞または掲載されたものは除きます。 ※応募者が自ら行った実践であることを条件とします。

賞 賞状および賞金8万円

募集期間 平成30年10月10日～12月10日(郵送のみ、必着)

応募方法 取り組んだ教育実践の内容を指定の書式の論文にまとめ、応募票(松本大学HPからダウンロードし必要事項を記入)を添付し、募集期間内に下記のあて先へ郵送。
〒390-1295 長野県松本市新村2095-1 松本大学教職センター

お問い合わせ先 〈教職センター長〉 E-mail yasutoshi.yamazaki@t.matsui.ac.jp 〈教職センター事務局〉 TEL 0263-48-7260

詳しくは、
こちらをご覧ください。

松本大学教育実践改善賞 検索



2018信州総文祭(特別支援学校部門)が本学にて開催

熱気と歓声で溢れた交流会を教育学部2年生が企画運営

学校教育学科 教授 小島 哲也

8月7日から5日間、第42回全国高等学校総合文化祭(総文祭)が長野県で開催され、本学では8月8日から10日まで、特別支援学校部門のステージ発表、展示・販売等が行われました。その中で、教育学部の実習授業「障害児臨床支援演習」の全受講生35名(2年生)が初日に行われた生徒実行委員会主催の交流会の企画・運営に参加しました。当日は司会の教育学部2年生の飯田日南さんによる開会挨拶に続いて滝澤健太さんの指揮で部門イメージソングを全員で合唱。美しい歌声とアンサン

ブルの響きが会場全体を包み込み、聴衆は思わず聴き入ってしまいました。その後、全員参加のゲームとダンスに移ると会場全体が熱気と歓声で溢れ、あっという間に予定の時間になりました。最後に、学生代表の田中慧さんから、「高等部最後の夏休み、最高の思い出になるように皆さん頑張ってください。応援しています。」との力強いエールが贈られると会場の熱気は最高潮に! 甲子園の球児たちにも負けな

熱い3日間のスタートでした。ご協力いただいた皆様に心から感謝致します。



交流会後、全員で集合写真

進展する地域防災への取り組み

松本大学地域連携戦略会議議長
木村 晴壽

本学が防災・減災問題と本格的に取り組んでからほぼ8年が経過しました。東日本大震災被災地の小学校丸ごと支援から始まった地域防災への取り組みについて、私たちなりの知見を地域づくりに活かすべく、次のステージに向けた深化の一端をご紹介します。

2018年“防災士養成研修講座”、地域住民70名が受講

日本防災士機構から養成機関として認定を受けて本学が実施する“防災士養成研修講座”は、年1回のペースで本年度は5回目となり、去る8月25日・26日の両日にわたり開催されました。受講者数が例年と比べてやや少ない70名となったのは、本年度から本学総合経営学部の正規科目として防災士養成につながる講義がスタートしたため、例年養成講座を受講していた学生が授業科目の履修へ移行したのが原因です。

総合経営学部に置かれた防災関連の3つの科目をすべて履修すれば、自動的に日本防災士機構が実施する認定試験の受験資格が得られるようにカリキュラムが設計されているので、過去1年間これらの科目を履修してきた約30名の学生諸君が8月26日に認定試験を受験したのです。

この養成講座は、日本防災士機構との協定にもとづいて実施されているため、カ



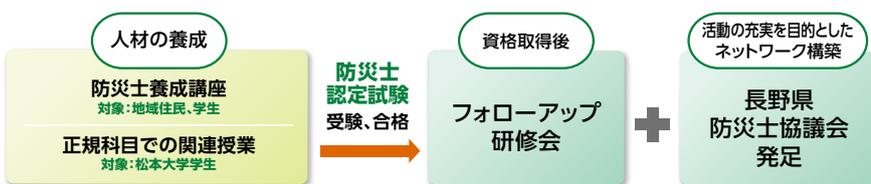
災害図上訓練(DIG)の様子

リキュラムやその内容だけでなく、講師の陣容についても厳しい条件が付されており、わずか2日間で防災士認定試験の受験資格を取得できるということもあり、かなり高いハードルを越えなければなりません。受講者の皆さんは、ハードな受講スケジュールを全うすることに加え、かなりの

量のレポートを提出しなければならないなど、なかなか気力・体力が要求される中味となっています。

例えばレポートについて、テキストとして使用する『防災士教本』全31項目のうち、19項目に関するレポートの提出が義務づけられ、しかも、内容に不備があれば講座2日目までに再提出しなければなりません。そのうえで12項目にわたる講座を受講することではじめて、防災士認定試験の受験資格を得ることができるのです。本年度も受講者の皆さんは、講座前の何日間と講座の2日間、まさしくフル活動だったようです。

〈本学が取り組んでいる地域防災への取り組み〉



松本商工会議所と連携・協力に関する協定を締結 地域の発展目指しインターンシップ等で相互交流

松本商工会議所と本学は9月10日、松本地域の企業の発展と若者の地元定着を目指す事業の連携・協力に関する協定を締結しました。企業と大学がインターンシップ(就業体験)等の事業を通して相互の理解

を深め、地域の発展に寄与することを目的とするものです。インターンシップのほか、地元企業に対する学生の理解を深めるための活動、大学の教育・研究成果を商工会議所に提供するという連携も図り、積極的に交流を進めます。

松本商工会館で行った調印式には、商工会議所から井上保会頭と伊藤淑郎専務理事、本学から住吉廣行学長と等々力賢治副学長ほか関係者が出席しました。井上会頭は「松本大学の学生は地域に溶け込み、さまざまな活動を行っている。次世代を担う

学生が企業と交流することで、地元就職し、活躍の場を広げてほしい」と話し、住吉学長は「専門性や社会性を身につけた学生を地域に送り出すのが大学の使命であり、学生には社会で能力を存分に発揮してもらいたい。地域の企業を知り、卒業前に働くことの本質や自分の力を知ることがとても大切」と協定の効果に期待しました。

本学では来年度からインターンシップの単位化を予定しており、今後は商工会議所の仲介で受け入れ企業と協力体制を築きながら、キャリア教育の一層の充実を図っていきます。この協定による相互交流が地域社会の発展につながるよう、さらに協議を進めていくところです。



講座5年目の節目に重要な第1歩



第一回防災士フォローアップ研修会を開催には240名の防災士が参加

本学の防災士養成講座を通じて資格を取得し、防災士として登録された方々の数が400名に近づきつつあるなか、最近、「資格取得後のアフターケアを松本大学で実施してくれないか」「その後、何か集まる機会はないのか」という要望が数多く寄せられる一方で、養成機関としての責任を果たすため資格取得後のフォローが必要

であることは本学関係者すべてが重々認識するところでした。こうした背景のもと、講座実施5年目をひとつの節目に去る6月30日、第一回“防災士フォローアップ研修会”の実施に漕ぎ着けたことは、本学の地域防災活動がさらにひとつ歩を進めただけでなく、養成機関として、責任の一端を果たすことにもなりました。

“長野県防災士協議会”の発足へ

研修会は、本学と長野県危機管理部危機管理防災課との共催という事情を活かし、1,800名を超す長野県内の防災士登録者全員に呼びかけた結果、240名の県内防災士が参加する、活気あふれる会合となりました。研修会は2部構成で実施され、防災と減災の相違を説く室崎教授（兵庫県立大学防

災教育研究センター長）の講演では、防災・減災を地域で進めるうえで、防災士が果たすべき役割の重要性が浮き彫りになりました。第2部のパネルディスカッションで明確になったのは、防災士が個人として個別に活動するのが極めて難しいこと、したがって防災士が結集する何らかの組織が必要であ

り、その組織を通じて防災士としての活動を促進する必要があること、の2点でした。

このような研修会での意見等を受け、本学に事務局を置く“長野県防災士協議会”が発足しました。この協議会の運営は本学と長野県危機管理部危機管理防災課が共同で担います。

TOPICS

学生が園児の避難を誘導 新村地区、新村保育園と合同防災訓練

松本大学地域防災対策委員長
尻無浜 博幸

ここ数年、本学の災害時避難訓練は地元の新村地区と合同で実施しています。さらに、設定された訓練にならないようにするため、シナリオは用意せず、実際の災害を想定



保育園へ救援にかけつけ、大学へ誘導する学生たち

した訓練を実施しています。今年度は、「地区内の外部サポートが必要と思われる機関（例えば福祉施設や病院、保育園）における訓練」をテーマに計画し、7月10日に新村地区と新村保育園、松本大学の合同で地震を想定した避難訓練を実施しました。

新村地区の防災マニュアルには、「新村保育園の園児のサポートに松本大学の学生が可能な範囲で救援にかけつける」とあります。今回の成果として、土日祝日と平日とでは学校にいる学生の数も行動形態も

異なりますが、はたしてその条件下で学生がどのような救援の役割が果たせるのか、また保育園側がその時を望んでいるのかを検証することができました。

今回の訓練には、平成29年度から始められている防災士養成講座受講生が25名参加しました。防災士としての専門性を高めるといふ観点からも、この学生たちを核にしながら、新村地区防災マニュアルに沿った検証、そしてその後の見直しを訓練によって積み重ねていく予定です。

日本カウンセリング学会 第51回大会開催

学校教育学科 学科長・教授 岸田 幸弘

一般社団法人 日本カウンセリング学会第51回大会が、9月15日～17日、本学で盛大に開催されました。初日の研修会では10講座が開かれ、2日目・3日目は招待講演・シンポジウム・事例発表・ポスター発表と、たくさんのプログラムが展開されました。特に諏訪中央病院名誉院長の鎌田實先生をお招きしての公開招待講演では『命と向き合い、自分と向き合う～命・人間の関係・心を考える～』という演題でお話いただき、学会員に加え100人を超える一般の方々が聴講に訪れました。心に響く、

考えさせられるお話だったという感想を多くいただきました。

今回の大会は『各職域におけるカウンセリング』をテーマに行われ、医療・教育・福祉等の多岐にわたる分野で議論が交わ



鎌田實先生の講演会の様子

され、これからの日本のカウンセリングの発展を展望するよい機会となりました。初日は雨に降られましたが以降は天気もよく、本学の中庭やキッチンカー、書籍販売の周辺なども賑わいを見せていました。



シンポジウムの様子

健康づくりプログラム 対象者を拡大し本格実施へ

松本大学研究ブランディング事業
推進委員会委員長
等々力 賢治

本誌前号では、運動促進プログラムの「タグフィットネス」(本学登録商標)に栄養指導とメンタルチェックを加えた、本学研究ブランディング事業の中核をなす健康づくりプログラムについて紹介しました(蒼穹vol.131 p.8~9参照)。今号では、その実施状況を中心に報告します。

10社1村260名余を対象に展開中

本事業の主たる対象者は、前号でも述べましたように企業従業員(=現役世代)です。8月31日現在、このプログラムには、池の平ホテル&リゾートをはじめ県内のテレビ局や広告会社などのメディア関連会社や株式会社村瀬組など10社計170名を超える皆さんに参加いただいています。それに加えて6月からは、ハケ岳山麓にある高原野菜の栽

培が盛んな原村からの要請に応え、同村の健康増進事業の一環として、農業従事者や高齢者などを含む村民91名を対象に同様の取り組みを展開中です。したがって、「タグフィットネス」を中心とする健康づくりプログラムの有効性、成果確認には現在、10社1村260名余りの方々に参加いただいていることになります。



参加従業員から評価の声

上記に加え、9月以降には、株式会社工



ア・ウォーターをはじめとした6社130名余りが参加する予定です。すでに事前の取り組みの段階で医療費が削減されたとのデータを得ていますし、今回の取り組みの中では、社内でお互いの運動実施状況が頻繁に話題にのぼるようになったとの声も聞こえており、従業員間におけるコミュニ

ケーションの活発化によるストレス要因の軽減といった「タグフィットネス」の狙いの一端が垣間見えたりもしています。そうした意味で、約400名の方を対象とする大規模な実証的実験であり、多くの困難を伴う取り組みではあるのですが、その成果や効果を大いに期待し臨みたいと思います。

本事業に対する社会的関心の高まり

上述した原村からの要請や参加企業の多さなどは、健康づくりを中核とする本事業に対する関心や期待の高さをうかがわせませす。また、250名余りが参加した本事業キックオフ・シンポジウム(5月24日開催)終了後のアンケート調査では、回答した9割超の企業関係者に健康経営に対し

て「必要」と回答していただいたことから、それに応えようとする本事業への関心や高い期待があるのは間違いありません。

6月29日に、本学同様ブランディング事業に取り組んでいる北海道科学大学から関係者が来訪したのをはじめ、7月9日には、本学のCOC事業とブランディング事業に関する

聴聞を主目的に丹羽秀樹 文部科学副大臣が訪れ、8月31日には田園調布学園大学による聞き取りがありました。さらに県内でも、8月22日には長野県経営者協会と連合長野の共催による労使懇談会で、また、同24日に

は長野県生活協同組合連合会の理事長・専務理事懇談会で、それぞれ冒頭の研修会において事業委員長の等々力賢治教授が事業の内容などについて講演しました。

前三者は、おそらく本学ホームページの事業に関する情報を基に聴聞を選択、決定したのでしょうし、後者の三つの団体による講演要請は、いずれも5月24日のキックオフ・シンポジウムに参加して必要性を痛感したためとのことでした。

ここに紹介した事例は、本事業に対する関心が社会的に高まりつつあることを実感させます。今年度下半期は、そうした動向を踏まえ、来年度以降予定している全面展開に向けて種々の準備を着実に進めていきたいと考えています。



活発化する連携協定

研究ブランディング事業の本格化をきっかけに、本学では学外機関との連携協定締結がますます活発になってきました。学外関係各所と結ぶ連携協定で相互に協力しあうことで、プロジェクトのさらなる拡幅と内容の充実が期待されます。以下に、現在の協定締結状況をテーマ別にご紹介します。

松本大学 現在の連携協定締結状況 (テーマ別)

テーマ	自治体	各種団体・教育機関	各種法人	株式会社等	委託事業・共同研究等
健康づくり	松本市、安曇野市、塩尻市、諏訪市、南箕輪村、生坂村、筑北村、麻績村、原村	松本商工会議所、全国健康保険協会長野支部	NPO 法人アルヴィズ、熟年体育大学リサーチセンター、(財)松本市勤労者共済会、(財)長野県健康づくり事業団	(株)ライフサービスオグチ、(株)村瀬組、池の平ホテル&リゾーツ、エア・ウォーター株式会社、(株)コスモ	筑北村、(株)アコース、アルプスあづみの公園管理センター、(株)マルサンアイ
スポーツ振興		長野県体育センター、長野県総合型クラブ連絡協議会	東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会	(株)長野県民球団、(株)松本山雅、(株)信州スポーツスピリット	(公財)日本レクリエーション協会、長野県レクリエーション協会
商品開発				(有)あづみ野食品、(有)斉藤農園、(株)オオノタ、(有)ヘルシーフーズ、横澤農園、(株)ユアーズ静岡	(有)あづみ野食品、信州安曇野勤農(同)、美勢商事(株)、日健総本社
社会福祉	麻績村、松本市		(福)山形村社会福祉協議会	(株)デリカ	
まちづくり・地域づくり	松本市、安曇野市、生坂村、筑北村、松本市新村地区、高山市	上土商店街振興会組合、全国「道の駅」連絡会	日本財団学生ボランティアセンター	アクティオ(株)	松川村、パシフィックエース北陸(株)
企業各種支援			(財)長野県中小企業振興公社	(株)バリューブックス	
ひとづくり教育・文化活動	生坂村、筑北村、麻績村、飯田市	松本商工会議所、飯田 OIDE 長姫高校	国際ロータリー第 2600 地区、(福)山形村社会福祉協議会		安曇野市
高大連携	長野県商業教育研究会、南安曇農業高校、穂高商業高校、岡谷東高校、エクセラン高校、丸子修学館高校、飯田 OIDE 長姫高校、松商学園高校				
大学間連携	県外	十文字学園女子大学、共愛学園前橋国際大学、上越教育大学、湘北短期大学、上越教育大学			
	県内	信州大学、(公)長野大学、コンソーシアム信州、(公)諏訪東京理科大学、清泉女学院大学・短大部、放送大学			
	海外	米国: Utah Valley State College、チェコ: The University of Pardubice、中国: 中華人民大学外国語学部、嶺南師範学院、台湾: 義守大学、韓国: 東新大学、済州大学			

スピーチコンテストで 今年も松本大学交換留学生が優勝!

松商短期大学部 准教授
中村 純子

7月21日、Mウイングにて「松本留学生応援ファミリーの会」等で作る実行委員会が主催した「第8回平和・国際交流に関わる留学生スピーチコンテスト」が開催されました。原稿予選を通過した16名のスピーチが披露され、本学の中国からの交換留学生、楊少華(ヨウショウカ)さんがみごと優勝を果たしました。楊さんは、留学生には日本の人々、文化、社会のことを自国の人に伝える「使命」があると訴え、スピーチの中で日本語を「恋人」と呼び、「恋

人」のことを知ってもらうために将来は日本語教師になりたいと締めくくりました。その他にも予選を通過した本学の2名の交換留学生、張璐詩(チョウロシ)さんと連美維(レンビイ)さんも熱弁をふるいました。張さんは「音楽で世界をひとつに」と題し、音楽は言葉の壁を超えて世界の人々の心を繋ぐものであることを、流暢な日本語で語りました。また、連さんは「心の平和」をとりあげ、ストレスがたまる留学生活の中で、授業で参加した森林散歩によって



コンテスト終了後、参加した学生達と

心が解放されたことや自然との一体感を、こちらも細やかな描写力で表現しました。他の13名のスピーチも素晴らしく、毎回、留学生の視点・感受性には、感動させられます。是非、日本人学生にも聞いてもらいたいスピーチばかりでした。

今年も開催! 「おいでよ」松大健康教室

毎年、健康栄養学科3年生の授業「栄養教育実習」の集大成として、「おいでよ」松大健康教室を開催しています。本年度も、本学で「まつもと広域ものづくりフェア」が開催された7月14日に実施しました。「ものづくり」ではありませんが「健康づくり」につながる企画として、このフェアの一環で実施させていただきます。

通常、A・Bクラスに分かれて行っている実習授業ですが、当日は合同の取り組みとし、12の班に分かれてライフステージ別のテーマを設定し(A・Bそれぞれ①幼児②学童③大

健康栄養学科 教授 廣田 直子

学生④成人20～30歳代⑤成人40～50歳代⑥高齢者の6種類)、2か月前より準備を進めてきました。学生たちは当日までに何度もリハーサルを重ね、意見を交換し合い、より良い発表ができるようにと取り組んでくれました。そして寸劇や歌を取り入れたもの、参加型や体験型などの工夫をした講義など、できるだけ参加者に楽しみながら健康や栄養について関心をもってもらえるようにと工夫をこらしたプログラムが完成しました。



太り過ぎを防ぐ食事改善のためのクイズ

当日は、幼児からシニアまで、昨年を上回る89名の皆様が参加してくださいました。学生たちの「健康づくりのヒント」が参加された方々にお届けできていれば幸いです。

高齢者施設で提供される食事理解を深めるために ～嚥下調整食の調理実習～

健康栄養学科 専任講師 長谷川 尋之

現在の日本で起こっている健康問題の一つに、老化により口腔機能が低下し、摂食・嚥下障害に陥り、高齢者の低栄養、誤嚥に繋がっている、ということが挙げられます。高齢者施設をはじめとする高齢者の食に関わる管理栄養士は、個々の摂食・嚥下能力に合わせた食事を考える必要があります。そこで健康栄養学科では「応用栄養学実習」の一環として、7月6日に松本市の介護老人福祉施設・グループホーム「サルビア」の調理師である奥原初美先生、羽多野ひろみ先生をお招きして嚥下調整食の特別講義を行いました。



介護老人福祉施設「サルビア」は、2014年地域の伝統食で作る嚥下食メニューコンテストにおいて、一見すると常食のような「天ぷらそば」のソフト食で優秀賞を獲得しており、利用者の方に喜ばれる料理提供ができるよ

うに日々工夫をされています。ソフト食を作り始めたきっかけも、「認知症をもつ利用者様の中には、ドロドロとしたミキサー食は食べ物として認知しないこと」だったそうです。

実習では、「ご飯」、「鮭の塩焼き」、「肉じゃが」、「ほうれん草のお浸し」を摂食・嚥下能力に応じたソフト食をはじめとする様々な食形態への展開方法を学びました。また、ソフト食では調理が難しいとされていた麺類の「うどん」を作りましたが、「うどん」の調理方法は、多種の食事を準備しなければならない施設でも効率よくできるよう工夫されたもので、調理方法を見つけるまでの現場の苦労話に学生は聞き入っていました。調理体験の機会も多く作って頂き、学生は積極的に取り組むことができました。

》 ビジネス論の観点からブライダル業界を視察

松商短期大学部 専任講師 小澤 岳志

小澤ゼミナールではブライダルを社会学、文化論、ビジネス論という3つの視点から学習・研究しています。

まず、社会学の観点からでは、現代の少子化には婚姻件数の減少が大きく影響しております。また時代と共に結婚や家族のあり方・考え方は大きく変化しており、グローバル化と共に国際結婚も増加し、一昨年には



日本もハーグ条約を批准しました。

文化論の観点からでは、昔は自宅で祝言を挙げていましたが、日本各地で風習は異なるということ、神前結婚式は神道に基づいたものでその起源は古事記に由来すること、今流行の教会式を理解するには聖書を読み解かなくてはならないことなどから判るように、結婚式は文化であり宗教儀式でもあるのです。

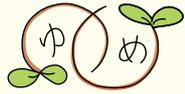
ビジネスとしても分単価が数万円を超える高額な消費であり、経済活動を考える時そのインパクトは相当なものです。そんなブライダルのビジネス論を直に学ぶため、6月19日、東京ビックサイトでの「ブライダル産

キャンパスを飛び出し
地域で学ぶ!

out campus study

アウトキャンパス・スタディ

業フェア」に行き参りました。年に一度のブライダル業界国内最大の展示商談会です。最新の商品やシステムから、講演会やファッションショーの開催と、幅広くブライダル業界の今が学べます。併せて一泊二日で有名ホテル・式場にて研修を行なって参りました。明治記念館、ホテルニューオータニ、日枝神社、赤坂プリンスクラシックハウス、カトリック東京カテドラル関口教会、小笠原伯爵邸、の関係6施設に訪問させていただきました。一流のサービスを体験することは、学生にとって、今後の勉強や将来の就職に際しても大変よい経験になったことと思います。



話と和と輪、想像と創造の空間 地域づくり考房『ゆめ』



地域づくり考房『ゆめ』は、学生が大学での学びを活かして地域と連携し、地域の課題解決に向けて主体的に取り組む活動を支援しています。

はじめての「お弁当作り」に挑戦!!

8月7日、本学にて学生プロジェクト◎いただきます!!のメンバー13名と、新村児童センターの児童1～6年生37名が、夏休みの1日を使い「子ども料理教室 お弁当作り」を行いました。

児童たちは、◎いただきます!!メンバーから手洗いの仕方や包丁の使い方、栄養価について説明を受けたあと、メンバーがレシピを考案した、お花の巻き寿司・もやしのナム

ル・グラタン風ポテトサラダ・豆腐ハンバーグの4品を作りました。お弁当作りが初めてという児童もメンバーから分かりやすく説明を受け、学年を超えて仲良く楽しく作ることができました。

持参したお弁当箱へ思い思いに料理を並べ、「みんなで協力して作れてよかった」「お弁当づくりがとても楽しかった」「今度、お母さんと一緒に作りたい」など、それぞれが作る楽し



初めての巻き寿司づくりに挑戦

さや食べる幸せを感じた一日でした。

(地域づくり考房『ゆめ』 山岸 勝子)

すすき川花火大会で学生が活躍、やりがいを実感



実行委員会でデザインしたポスター案についてプレゼン

8月10日、松本市筑摩にて、すすき川花火大会が行われました。この花火大会は、以前は異なる名称で実施され2007年に一度途絶えてしまっていたところ、2011年に株式

会社富士電機の方々を中心に実行委員会が生まれ「すすき川花火大会」として再開されたという経緯があります。

学生たちの関わりは2014年に、実行委員の方から「若者の視点と発想で、新風を吹き込みたい」という依頼を受けて始まりました。学生たちは主に

広報・企画に携わり、自分たちが考案したデザインや企画を実現していく中でやりがいを感じているようです。

今年度は初の試みとして、地元の方への花火大会の歴史の聞き取りや、並柳団地の子どもたちに花火を見てもらい絵画コンテストへ応募してもらった活動のサポートを行いました。当日は雨が降る中ではありましたが、無事開催されて学生たちもほっとした様子でした。今後も地域の方との関わりを持ちながら、花火大会を盛り上げていく活動を続けてもらいたいです。

(地域づくり考房『ゆめ』 上川 由香里)

新村地区オープン大会(ワンバウンドふらば～るバレー)に参加

7月1日に、恒例となっている新村地区オープン大会「ワンバウンドふらば～るバレー」が芝沢体育館で開催されました。松本大学からは、『ゆめ』で活動する学生2チームが参加しました。

「ワンバウンドふらば～るバレー」とは、変形したボールを使うバレーボール型のスポーツです。相手コートから返ってきたボールは必ずワンバウンドさせてからレシーブしなければならないので、慣れていないと意外に難しいスポーツです。学生もなかなか地域のチームに勝つことができず、毎年決

勝リーグに進めず悔しい思いをしてきました。しかし、今年は負けてばかりではなく、勝つ試合も増えてきました。地域住民も1試合終えるごとに上手になっていく学生

に焦りを覚えたに違いありません。結果は今年も予選リーグを勝ち進むことはできませんでしたが、『ゆめ』から参加した2チームのうちどちらのチームも予選リーグ最下位は免れました。来年は決勝リーグ進出が期待されます。

「ワンバウンドふらば～るバレー」はこの



ユニフォームを揃えて気合い十分

他3月と6月にも大会が行われ、学生は新村地区のスポーツ推進委員の方から誘われて参加しました。これからも、この競技を通じて、新村地区や松本市の地域の皆様と交流を深めながら楽しく過ごす機会が増えていくことを期待しています。

(地域づくり考房『ゆめ』運営委員長 廣瀬 豊)

地域の健康づくりを支援する 地域健康支援ステーション



地域健康支援ステーションでは、地域からの依頼を受けて健康づくりの支援やメニュー提案など実践的な活動を行っています。最近の活動をご紹介します。

管理栄養士
スタッフ
飯澤 裕美



健康運動指導士
スタッフ
土井 麻弓



健康づくり推進員の 視察研修会を実施



6月14日、松本市役所より里山辺地区健康づくり推進員視察研修の依頼を受け、本学にて実物大の料理モデルを使ったSATシステムによる食事診断と栄養講座を実施しました。参加者からの希望で



SATシステムによる食事診断

昼食に学生食堂をご利用いただきその後、研修会を実施しました。事前に松本市の担当保健師から、この地区の課題である「低栄養」をテーマにした研修との希望があり、基本となる食生活のバランスと、低栄養についての詳しいお話をしました。特に高齢者は低栄養になると負のスパイラルに落ち込み引きこもりから寝たきりにつながる恐れがあること、サプリメントに頼りすぎず主食・主菜・副菜を揃えた食事が基本であることなどをお伝えしました。「学食を利用して楽しかった」「低栄養について知ることができてよかった」などの感想をいただきました。

高校陸上競技部で出前講座を実施



上伊那農業高等学校陸上競技部より、「運動後のクーリングダウンと補食について」の指導の依頼を受け、7月17日に上伊那農業高等学校に出向きストレッチ等の実技を土井健康運動指導士が、アスリートの栄養・補食の話を飯澤管理栄養士が担当し、陸上競技部員に指導しました。



陸上部員への実技指導

クーリングダウンのストレッチでは、1つの動作に時間をかけることが重要であると説明し、実際にその要領を体感してもらいました。一人で言うストレッチ、ペアで行うストレッチなどそれぞれ身体を動かしながらより効果的な動作となるようなポイントを伝えました。同じ臀部でも少しポーズを変えると一番大きな筋肉、小さな筋肉などストレッチされる部分が変わり、部員たちは声を上げながらワイワイ楽しそうに取り組んでいました。

身体を動かした後は、全員に今日の朝食と昼食のメニューを書き出してもらい、食事バランスガイドを使ってバランスチェックをしました。朝食、昼食での過不足は夕食で調整するか補食として補うことを提案しました。また、トレーニング日の補食として適する既製品を具体的に紹介すると共に、電子レンジで簡単に手作りできる「蒸しカステラ」のレシピ紹介と試食をしました。素朴な味が部員には評判よく、女子部員からは「自分も作ってみたい」とレシピの応用などの質問がありました。

食生活改善推進協議会 リーダー研修会で実技指導



松本保健福祉事務所より食生活改善推進員ステップアップ研修会の依頼を受け、7月12日に松本合同庁舎に出向いて健康運動の講演と実技指導を行いました。

「転倒予防・介護予防のための筋力トレーニングとストレッチ」のテーマで、運動による転倒・介護予防の効果と継続的な運動の大切さについてお話ししました。講演では受講生も参加できるようクイズを出題したところ、積極的に手を上げてくださり楽しく盛り上がりました。その後は講演で紹介した筋力トレーニングとストレッチを実際に体験してもらい、また冷え性改善にもなる足指・足裏マッサージをしたあとは実際に血色がよくなっている足を見て、多くの方が驚いていました。参加者からは「初めて知る情報もあり勉強になった」「身体を動かして気分がスッキリした」「また指導してもらいたい」といった感想をいただきました。

山形村健康づくり推進員の研修会を実施



山形村役場より健康づくり推進員研修会の依頼を受け、8月30日に本学にて体力測定と運動指導を土井健康運動指導士が、栄養講座を飯澤管理栄養士が担当し、実施しました。

体力測定では、基本となる体力測定のほかトレーニング室にある専門機器を使用する脚筋力測定を実施し、それぞれの結果を見てもらいました。参加者の中には予想よりも低い数値に驚かれる方がいる一方で、日ごろの運動の成果が出ていると喜ぶ方もいました。測定を終えたあとはフィードバックを行い、各項目の向上トレーニングを指導しました。参加者から「自分の衰えているところが良くわかった」「今後がんばって筋肉をつけていきたい」などの感想をいただきました。

栄養講座では、SATシステムでの食事診断を行い、その結果を



学生がフォローし、脚筋力測定で右太ももの筋力測定

を受けてバランスの良い食生活のポイントについてお話をしました。食事診断で自分の食事バランスの弱点を知った上で講話を聞くことにより、自身の改善すべきところを重点に理解いただけたようです。「色の濃い野菜料理を意識したい」「油を使った料理を控えたい」など具体的な改善方法が見つけれられたようでした。

皆さまのお近くで、学生や専門スタッフ(管理栄養士・健康運動指導士)が
お手伝いできることがありましたら、是非お声をかけてください。

松本大学と短期大学部 外部評価委員会を開催

8月30日、松本大学では7名の外部評価委員を迎え、平成30年度第1回外部評価委員会を開催しました。点検・評価のテーマは次の通りです。①第2次中期目標・計画②平成29年度事業報告③平成30年度事業計画④DP(ディプロマ・ポリシー)、CP(カリキュラム・ポリシー)、AP(アドミッション・ポリシー)とアセスメント・ポリシー⑤松本大学研究ブランディング事業
平成29年度から取り組んでいる「松本大学研究ブランディング事業」については、「松本大学研究ブランディング事業評価部会」を本委員会の中に特設することが承認されました。



また、松商短期大学部では9月4日に、外部評価・助言委員会を開催しました。本学から①学生募集②カリキュラム③学生生活の支援④キャリア教育・就職支援⑤国際交流活動⑥地域づくり考案「ゆめ」について説明し、社会的立場の異なる6名の委員から幅広い助言を受けました。

(事務局長 柴田幸一)

「わが国における高等教育のグローバル化」をテーマにSD研修会を開催

9月4日、松本大学松商短期大学部主催による全学SD研修会を512教室において開催しました。今回は公開研修会とし、他大学等を含む多くの教職員が参加しました。まず、4年制大学の取り組みとして、明治大学副学長の六野耕作氏が登壇され、明治大学の国際化戦略に基づく私立大学トップクラスの取り組みについてご報告いただきました。続いて短期大学の取り組みとして、湘北短期大学理事でグローバルコミュニケーションセンター長の佐藤清彦氏が登壇され、同短期大学の30年にわたる国際交流の取り組みについてご

報告いただきました。今回の研修は、本学が今後取り組むべきグローバル教育について示唆に富む研修となりました。9月11日には、「本学の柴田幸一事務局長を講師に、「私立大学等改革総合支援事業について」をテーマとしたSD研修会を開催しました。

(教務課長 赤羽 研太)



高大連携の実践の場「デパートゆにっと」を共催

高大連携の実践教育として行われる「第6回全国高校生合同販売デパートゆにっと」が、8月17日から3日間の日程で、井上百貨店本店を会場に開催されました。「デパートゆにっと」は、本学で行われている高校生の「マーケティング塾」の成果発表の場として定着し、



今年は県内外11校の高校が参加しました。会場では高校生が開発した地域資源を活用した100点を超える商品が販売され、このイベントを目当てに来るお客さんも増え活気に満ちた販売会となりました。本学の学生グループ「ゆにまる」も15名が参加し、「学生カフェあげつち井上出張店」を出店して販売会を盛り上げました。地域資源を活用した商品の内容は年々充実してきており、高校生や大学生の熱い思いが伝わる販売会となりました。

(観光ホスピタリティ学科 教授 大野 豊)

2018まつもと広域ものづくりフェアに13,950名来場

松本地域の子どもたちにもつくりの魅力や科学の楽しさを伝える「2018まつもと広域ものづくりフェア」が7月14日、15日の2日間、本学を会場に開催され、延べ13,950名の来場者で賑わいました。

今年は通算で19回目、本学が会場となって9年目となりましたが、毎年好評のものづくり体験コーナーには、計45種類のメニューが用意され、本学からは「プログラミング教室」「おいでよ！松大健康教室」「南極へGO!!」といった例年のメニューに加え、新たに「micro:bit

でセンサープログラミング」を開催。小中学生を中心とした参加者は、様々なものづくりに挑戦し、楽しさや面白さを実感したようです。

この他にも、「地元グルメコーナー」や「古本市あるがずブックス」を出展し、こちらも大変な盛り上がりを見せていました。地域貢献にも繋がるイベントとして、継続を望む声が多く寄せられています。(管理課長 赤羽 雄次)



第20回APMC (Asia Pacific Management Conference)、松本大学で開催

9月6日～8日、中国、台湾、韓国、フィリピン、タイ、スロベニア、ポーランドから日本人を含め約60名の参加で、APMCが開催されました。この会は台湾の国立成功大学が中心となり、アジア各国で開催されています。日本では、関西学院大元教授の石井博昭氏が窓口になっており、筆者の高校同級生でもあり、会場校を引き受けました。地方都市開催の要望もあり、石井氏からの要請で過去にも、日本-韓国、日本-チェコのOR(オペレーションズ・リサーチ)関連の国際会議が本学で開かれました。今回は、数式による詳細なプレゼ



ンより、社会的な課題解決に向けどのような対処が求められているか、どんな試みが成されているか等、多く紹介され、各国の実情を反映した発表で、未だ訪問したことのない国を知り、日本との比較もできた面白い内容でした。

関西空港が台風の影響で閉鎖され、松本大学まで到着できるか心配でしたが、1名を除き事前登録者は全員来場されました。次回はモンゴルでの開催です。(APMC大会長 松本大学 学長 住吉 廣行)

10年間咲き続けてきた新村のひまわり

猛暑で干ばつ気味だった今年のひまわり畑。そのためいつもより小柄な花でしたが、そのスケールに評判は上々。「新村のひまわり」として地域の風物詩となり、今年で10年目を迎えました。これまでの10年間、JA新村青年部も学生もメンバーや役員が変わる中、代々に渡り青年部が作付けを、学生がPRと活動を続けてきました。

今年の目玉は学生のアイデアでインスタスポットや看板を設置し、さらに過去の学生が商品開発したひまわり関連の復刻商品(パン、ワッキー)を特別に



手配して、限定販売を行いました。見客は広く県内外から訪れ、ニュースや新聞にも取り上げていただきました。保育園児や子育てサークルとの交流も続いています。こうした細く長く続く地域密着の取り組みの中で、歴代の学生に引きつがれる良い企画が今年も見られました。

(観光ホスピタリティ学科 教授 中澤 朋代)

山崎保寿教授が日本学校教育学会賞を受賞

人間健康学部の山崎保寿教授(教職センター長)が、8月に開催された日本学校教育学会で学会賞を受賞しました。これは、山崎教授の著書「『社会に開かれた教育課程』のカリキュラム・マネジメント-学力向上を図る教育環境の構築」が、学校教育の発展に資する業績と認められたことによるものです。

3年生の就職活動支援開始! 「夏季就職合宿」

キャリアセンター
片庭 美咲

9月6日・7日と、9月13日・14日の2回にわたって、2日間の「夏季就職合宿」を白樺リゾート池の平ホテルをお借りして実施しました。このプログラムは本学の開学以来、継続して実施している就職支援行事です。今年は3年生が115名、さらにスタッフとして4年生25名が参加しました。

1日目は、面接試験に関わるマナーやグループディスカッション試験の対策をグループで行った他、ブースを設けた4年生による内定企業説明会や就職活動体験報告会を企画したところ、どのブースも盛り上がりを見せ、

質問に的確に答える4年生の姿が3年生に大きな影響を与えていました。また、夕食後は3年生が4年生や教職員に個別に相談する等、自由な時間にも積極的に就職活動に向けた準備に取り組んでいる熱心な様子が印象的でした。

2日目は、本学のこの取り組みをご理解頂いている地元企業(今回は13社)にご協力を頂き、模擬面接を行いました。企業の面接官から指導を頂く大変貴重な機会です。多くの3年生にとっては初めての経験で、緊張のため思うように話せない等、実際の面接試験さ



グループワークで2日間のふり返り

ながらの体験を通して多くのことを学びました。面接終了後に温かなアドバイスを頂戴し、就職活動に向けた課題を明確にすると共に、高い意識を持ち行動に移すことの大切さに気付く、充実した2日間となりました。

3年生は来年3月に就職活動が始まります。今回の参加者が自信を持って自分らしさを語り、希望の進路を獲得できることを心から祈っています。

IoTをキーワードに地域の課題を解決 「InaHack 2018 2nd Session "Hackathon"」 総合経営学科学生が参加したチームが優勝!

総合経営学科 教授
室谷 心

8月24日・25日にJA上伊那本所にて「InaHack 2018 2nd Session "Hackathon"」が開催され、本学からは総合経営学科3年生大平菜美加さんと1年生大日方謙介くんが参加、二人の参加したチームは高い評価を受け優勝をはたしました。InaHackとは伊那地域における、農業を初めとしたさまざまな課題解決を目的としたワークショップで、今回のセッションは6月に行われたアイデアソン(アイデア出しワークショップ)の結果をもとに、IoT技術を利用してプロトタイプを具体化し

ようとするものでした。IoTを特にキーワードにしているところが、InaHackが他のハッカソンと一線を画すところです。

大平さんたちのチームは6月のアイデアソンで提案された観光分野の課題に取り組みました。人口の割に居酒屋が多いという伊那市の強みや、地酒をはじめとする特色ある食文化に着目して、飲食店を盛り上げるシステムをめざし、営業状況や混雑状況といった情報のリアルタイムでの取得をスマホひとつでできる仕組みを考えました。店舗の営業が看板の点灯に連



優勝を喜ぶ大日方君(左)と大平さん(右)

動していることに着目し、光センサを利用して看板が光ったらWebサイトに営業開始を表示。また磁気センサを店の扉につけて開け閉めをモニターし、扉の開閉から判断してWebサイトに店の混雑状況の表示を行うといったものでした。昨年優勝したチームの成果は実用化に向けて開発が進んでいるそうなので、大平さんたちの開発したシステムも実用化に向けて開発が進んでいくことが期待されます。

部活動情報 Club・Circle

男子サッカー部

第42回総理大臣杯 初出場!

男子サッカー部は、昨年末のインカレに続く2回目の全国大会となる、第42回総理大臣杯全日本サッカートーナメントへ初出場しました。1回戦は8月31日にヤンマースタジアム長居で開催され、九州地区第2代表の日本文理大学と対戦しました。九州らしい、強いフィジカルを前面に押し出した日本文理大学に対して善戦しましたが及ばず、1-4で敗れました。今後は今回までの経験も生かして、全国大会常連校となれるようさらなる努力を重ねる所存です。

最後に、出発時のお見送りや遠方までの応援等々、本当にありがとうございました。選手たちはよく頑張ってくれましたが、皆様と勝利を分かち合いたかったというのが、やはり本音です。来年も必ず出場し、全国での初勝利を見ていただきたいと思います!引き続き、ご声援をよろしく願いいたします。(男子サッカー部部長兼監督 齊藤 茂)



©JUFA

女子ソフトボール部

インカレ初戦で敗れる

『インカレに参加できる誇りを持ち、～中略～仲間と共に悩み苦しんだ日々が報われるよう、ゲームセットの最後のその瞬間までベストを尽くして戦う事を誓います。』熱野莉代主将(スポーツ健康学科4年)の選手宣誓で幕を開けた第52回全日本インカレ。今年はチーム力の低下が指摘されており、選手自身も相当の危機感を持って練習に取り組んだ結果、13年連続インカレ出場を果たすことができました。しかし、大会では神戸親和女子大学を中盤以降押し込みながらも、序盤の失点が響き1-3で1回戦敗退となりました。

敗れた以上悔いがないとは言えませんが、熱野主将の言葉どおり最後まで諦めることなく、学生らしい爽やかな本学の全力プレーは関係者からも賞賛されるものでした。

ここまでソフトボール部を支えて下さった保護者、関係者の皆様、改めて御礼申し上げます。

(女子ソフトボール部部长 岩間 英明)



硬式野球部

野球の楽しさ 園児に伝える

松本大学硬式野球部は、今年5月から開始された、保育園や幼稚園の子どもたちにボール遊びの楽しさ・面白さを伝え、幼



児期に必要な運動能力を身に付けることを目的とした「遊ボール松本プロジェクト」に協力しています。「遊ボール松本プロジェクト」は、市野球場を管理する企業や少年野球指導者と松本大学硬式野球部が協力して実施しており、硬式野球部員が市内の15の保育園・幼稚園を訪ね、延べ30回にわたり活動します。5月14日と6月15日には、新村保育園の園児を対象に本学が主担当として「遊ボール体操」や投球や捕球動作に

あわせて足の形でじゃんけんする「足じゃんけん」など、子どもたちにも親しみやすいメニューにより子どもたちを指導しました。部員たちは、グラウンドとは違って慣れない幼児との取り組みに悪戦苦闘する中でも楽しさを感じ、野球人として大人として、子どもと接する貴重な学びの機会になりました。

(硬式野球部 部長 白戸 洋)

硬式野球部秋季2部リーグ戦日程

節	月	日	曜	対戦カード	開始時間	会場
第1節	9	1	土	松本大学 - 茨城大学 14 - 2	12:00	松本大学
		2	日	茨城大学 - 松本大学 1 - 11	12:00	
第3節	9	16	日	常磐大学 - 松本大学 0 - 1	10:00	常磐大学
		17	月	松本大学 - 常磐大学 3 - 1	12:30	
第4節	9	22	土	平成国際大学 - 松本大学	12:00	平成国際大学
		23	日	松本大学 - 平成国際大学	12:00	
第5節	9	29	土	松本大学 - 埼玉大学	12:00	松本大学
		30	日	埼玉大学 - 松本大学	12:00	
第7節	10	13	土	松本大学 - 新潟大学	12:00	松本大学
		14	日	新潟大学 - 松本大学	12:00	

※日程・球場が変更になる場合があります。

ラート競技部

第14回全日本学生ラート競技選手権大会

8月18日、19日に茨城県つくば市の桜総合体育館で「第14回全日本学生ラート競技選手権大会」が開催されました。今大会へは、3学部1年生から4年生までの11名が参加し、競技種目には7名が出場しました(内2名初出場)。団体では、松本大学Aチームが昨年に続き2位となり、個人種目では、今年の5月に世界大会へ



出場した及川輝君(スポーツ健康学科3年)が個人総合2連覇に加え、決勝では3種目全てで1位という好成績を残しました。また女子総合6位に塚原彩香さん(スポーツ健康学科3年)、種目別では古田直也君(観光ホスピタリティ学科4年)が斜転で6位に入る等、各々が目標とした成績を上げることができました。最終日、観客の投票で優秀賞が決まるデモンストレーション演技部門では5位という結果でしたが、今大会で引退を決めている4年生を含め11名全員で本番に臨み、今できる精一杯の演技を披露しました。(ラート競技部 顧問 犬飼 己紀子)

アツい戦いを繰り広げた、私立短大の全国体育大会

8月6日～9日、東京で第53回全国私立短期大学体育大会が開催され、松商短期大学部の学生が、サークルとして男女バレーボールおよび男女バスケットボール競技に出場しました。

2校のみのエントリーだったため1試合だけの交流試合となった男子バレーは惜しくも敗戦。女子バレーボールは予選で勝ち上がりさらに1勝するも、次の準々決勝で敗退。男子バスケットボールは予選リーグで1勝1敗、女子バスケットボールはトーナメント戦の第1戦を2点差で勝ち上がったが次の試合では延長戦の末に2点差で敗れるという、ハラハラドキドキの連続でした。東京オリンピックなどの影響で来年から2年間は休会となり非常に残念ですが、その間も県内外の短大とスポーツでの交流を引き続き図っていきたいと思っています。(短期大学部 学生委員 川島 均)



陸上競技部

駆け抜けた平成最後の暑い夏

9月6日～9日までの4日間、神奈川川崎市で「第87回日本学生陸上競技対校選手権大会(日本インカレ)」が行われ、本学陸上競技部から小林航君(スポーツ健康学科4年)と、南澤明音さん(観光ホスピタリティ学科3年)の2名の選手が共に400mハードルに出場しました。今夏のジャカルタアジア大会日本代表選手も顔を揃え、「大学日本一」を決める大会に相応しい熱戦が繰り広げられました。

全国の壁は厚く、2人とも残念ながら予選敗退でしたが、この大舞台の中で共に自己2番目の記録をマークしたことは大変立派であり、今後の更なる可能性を感じました。

またこの他の大会でも、7月には南澤さんが同じく女子400mハードルで北信越学生新記録を樹立(1分00秒26)。更に8月には、男子4×200mリレー(1分27秒34)とメドレー(100m+200m+300m+400m)リレー(1分54秒20)の2種目で長野県新記録を樹立する活躍を見せてくれました。(陸上競技部 顧問 白澤 聖樹)

第87回 日本学生陸上競技対校選手権大会結果

- 男子400mH 小林 航(スポーツ健康学科4年) 予選2組7着 52秒25(予選敗退)
- 女子400mH 南澤 明音(観光ホスピタリティ学科3年) 予選3組5着 1分00秒70(予選敗退)

スキー部

FISグラススキーW杯 イタリア大会で活躍!

スキー部の前田知沙樹さん(スポーツ健康学科2年)は、7月から8月にかけて、イタリアのモンテカンピオーネで開催されたFISグラススキーW杯において大回転で優勝、続いて開催された世界ジュニア選手権では、回転、大回転、スーパーコンビ、及びスーパー大回転の4種目すべてで優勝し、4冠を達成しました。



(スキー部部長 齊藤 茂)

夏の雲を見ると思いたすこと

総合経営学科 教授 田中 浩

人間は過去の経験やイメージによって、特定の感情や思考にとらわれるようです。例えば、「子供の時に犬を飼ってもらえず切なかった」、そんな経験がある人は、犬の鳴き声を聞くと、なんだか切ない気分になるかもしれません。この「犬の鳴き声」が、ある特定の感情を引き出すトリガー(引き金)と言われます。

私が子供のころ、とても暑い夏に家族で山奥の貸山荘に出かけた時、父の小さな車が山道で動けなくなりました。「馬力が足りない!みんな

歩いてくれ」。父は、そう言うと、家族を道端に残し、自分一人しか乗っていない車でゆっくりと坂をあがって行ってしまったのです。

母の号令で、みんなで坂道を歩いて登りました。坂の上に着くと、その先にも長い坂道が続いていて、そのずっと先に父が車を停めて待っています。暑さと道の長さを嘆いて、私はぐずぐず泣き言を言っていました。

この時、祖母も一緒でした。すでに腰が曲がっていましたが、和服姿で黙々と坂道を登っ

て行きます。祖母は、商売人だった祖父のもとに嫁ぎ、慣れない生活で苦労もあったようですが、絶対に泣き言は言わなかったようです。その日の空は広く青く、大きな入道雲が色んな姿を競っているようで、とても印象的でした。

毎年、夏になり、同じような雲をみると、それがトリガーとなって、「どんなに暑くても泣き言を言うてはいけない」、そんな気持ちになります。それは、あの日の祖母の姿が強いイメージとして記憶されているからかもしれません。ですが、暑さと戦って熱中症になってはいけませんので気を付けています。今年は猛暑で、冷房機を何度も使う夏でした。

Information

高校生のための公開授業

受験生の皆さんに授業の様子を知り、キャンパスライフを体験していただくために、全学部、全学科で通常授業を公開します。

【日時】 10/8 (月・祝)
9:40~16:40



無料シャトルバス運行 松本駅アルブス口からのみとなります。
行き▶①9:00発 ②10:00発 ③11:00発 ④13:00発 ⑤14:00発
帰り▶①13:30発 ②15:00発 ③16:00発 ④17:00発 予約不要

受験前の疑問を解決 入試相談会 個別相談

【日時】 10/13 (土) 11/23 (祝) 10:00~15:00

【開催場所】 松本大学

※送迎バスは運行しませんので、ご注意ください。

予約不要

詳しくはホームページでご確認いただくか、入試広報室までお問い合わせください。

www.matsumoto-u.ac.jp ☎0120-507-200

松大生協から保護者の皆さまへ

「健康食券」10%プレミアム付 受付中

好評につき、学生のための「健康食券」(生協の購買でも金券として使用可)のお申し込みを10%プレミアム付で受け付けております。初めて購入される方、再購入される方も同様です。後期学費のご案内に同封させていただきました「松大生協用振込用紙」をご使用ください。お手元に用紙がない方は下記へお問い合わせをお願いいたします。

【問い合わせ先】松本大学 生活協同組合 TEL 0263-48-7280



健康食券をお渡しした後、学生と生協から「健康だより」としてご家族のもとに、葉書をお届けします

■ 学生の声

- いつもありがとうございます。この食券でおいしいごはんを食べて元気になって、午後の講義も頑張ります。
- いつもありがとう!これからも元気でいてね。
- 健康食券を使って、健康な食事を心がけています。いつもありがとうございます。

第52回松本大学大学祭 『梓乃森祭』

【一般公開】 10/13 (土) 10/14 (日)
10:00~16:00

【テーマ】 Fall into Memories

梓乃森祭
特設HP



■MUSIC LIVE2018「キューソネコカミ」

10月14日(日) OPEN 13:00 START 14:00/第一体育館

■お笑いライブin野外ステージ 10月13日(土)11:30~/野外ステージ

■第9回 松本大学 地域貢献大賞 選考会 10月14日(日)13:00~15:00

■わんちゃん・ねこちゃん 里親探し隊 10月13日、14日 両日開催

・ワンちゃんの見学 13:00~15:00 2号館横中庭

・パネル展・物販・バルーンアート 10:00~16:00 221教室

■教育学部ゼミ展示10月13日、14日 両日開催

■地域づくり考房「ゆめ」ゆめひろば 10月13日、14日 両日開催

※その他各種イベント、模擬店など多彩な催しで皆様のお越しをお待ちしています。詳しくはHPでご確認ください。

編集後記

記録的な早さで明けた梅雨にはじまり、連日最高気温の観測値が更新され続けた猛暑、そして動きも大きき想定外だった台風の襲来。今まで経験したことのない自然の驚異を目の当たりにした夏も終わり、信州は静かに実りの秋を迎えました。

さあ、松本大学もこれから実りの季節。日々の積み重ねの中や、新たな挑戦、改革の中から生まれた小さな実、収穫に向けどんどん大きく育っています。蒼穹の限られたページの中でご紹介できるのはそのほんの一部ですが、本当にいろんな種類のたくさんの実が毎日成長しているんです。松本大学は今年も大豊作ですよ! (記・入試広報室長 坂内 浩三)



〒390-1295 長野県松本市新村2095-1
TEL 0263-48-7200 FAX 0263-48-7290
www.matsumoto-u.ac.jp

